













萬人構

中華











# 聖教殿

一、この建造物は「聖教殿」と申します。

中山法華経寺には、日蓮大聖人の御真筆、国宝、觀心本尊抄、立正安國論を始め重要文化財六十四点、その他が格護されてありますが、その完全な保存をはかるために建てられたものであります。盜難、火災、虫害、湿気の害等を長きに亘って受けないよう、近代科学の教えるところをとり入れた保存方法が講じられています。

一、この宝殿が建設されたのは、昭和六年であります。計画の発議は、そのほど七年前、当時の法華会理事長

東京帝国大学教授 法学博士 山田三良氏を中心に法華経寺、日蓮宗宗務院、其の他多方面の協力によつて実行された事業であります。建物の設計者は、東京帝国大学教授 工学博士 伊東忠太氏であります。

一、宝殿の建設と同時に「聖教護持財団」という財団が組織され、今日も引続き御真蹟の保存護持に当つて居ります。御真蹟は毎年十一月初旬に展覧されます。

法華経寺

説明板 寄贈者 平成十一年度 大荒行堂

全堂代表	久	代
全堂副代表	小	林
五行代表	吉	田
五行副代表	新	妻
" "	佐	藤
島	智	教
田	光	顕
肇	則	誠
則	誠	嶺
豊	英	豊



























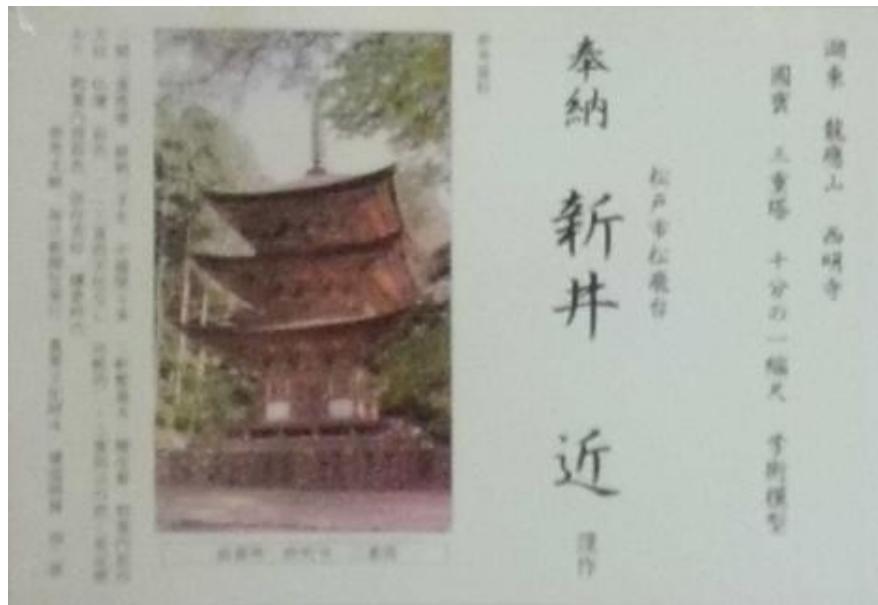




大勧進成大弘修理淨財受付中

















重要文化財 法華経寺四足門

大正五年五月二十四日指定

建築年代 室町時代後期

構造形式 四脚門、切妻造、こけら舞

四足門はもと鎌倉の愛染堂にあつたものをこの地に移したと伝えられています。法華経寺では、はじめ本院の玄関門としていましたが、明治になつて法華堂前の現在の場所に移されました。建築年代は形式より室町時代後期と思われます。

この門はほぼ純粹な禅宗様の様式で造られ、本柱を棟近くまで延ばし、この前後に控柱を立てて、これらを海老虹梁という湾曲した腰の強い梁で繋ぐ珍しい構造です。柱の断面はやや梢円形でこれも他に例のないものです。

さらに彫刻類の装飾が多いことも特徴のひとつで、それぞれ室町時代後期に多くみられる文様や形をよく現しています。これらの装飾は全て正面を意識して造られていることから、もとは側面の両側に塀を付属させた入口門であったと考えられます。また建具は和様の板唐戸を用いて様式的な変化を持たせています。柱、虹梁（梁の一様）など主要な部材には櫛、その他の部分には檜・杉・桜などを用いています。

昭和十年に解体修理が行われ、大部分の部材が新しいものと取り替えられましたが、使用可能なものは文化財の保存の意味から再用しています。

平成十一年三月





















# 重要文化財 法華經寺 法華堂

大正五年五月二十四日指定

建築年代 室町時代後期

構造形式

桁行五間、梁間四間、一重、入母屋造、銅板葺 附棟札 五枚

法華堂は法華經寺の本堂で、釈迦・多宝両尊像を本尊としています。

堂の創建は文永年間（十三世紀後半）に富木常忍が若宮の館に建立し、後にこの中山に移されたと伝えられ、銭四貫文で建てられたことから四貫堂とも呼ばれています。現在の法華堂は様式から室町時代後期に再建されたものと思われます。もとは祖師堂と同じ地盤に建つていましたが、江戸時代中期に行われた祖師堂の建替えに伴つてこの場所に移されました。建物は桁行五間、梁間四間の小規模な五間堂で、屋根の銅板葺は江戸時代後期の改造によるもので建立当初は茅葺でした。内部は正面一間の柱間を大きくとった吹き放しの外陣と一室の内陣からでています。柱や須弥壇（仏像を安置する壇）の配置などからは、内陣の奥行きを大きく取ろうとした工夫が見られます。なお、外陣正面にある「妙法花經寺」の扁額（市指定文化財）は本阿弥光悦によつて書かれたものです。法華堂は禅宗様を基調としながら和様を巧みに取り入れた形式で、日蓮宗仏堂としては最古に属する重要な遺構です。

平成十一年三月











